



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成31年1月19日(土)

のしろまち灯り会場彩るろうそく・凧絵灯籠作り 編

中心市街地のにぎわい創出につなげるイベントとして、平成19年2月から始まった「のしろまち灯り」は今年で20回目となります。今年度も、のしろまち灯り当日へ向け、ろうそくと凧絵灯籠作りを能代市子ども館で行いました。午前、午後の2回実施し、同市の小学生や保護者、実行委員が参加しました。

ろうそく作りは、廃食用油を80℃になるまで熱し、凝固剤とろうそくを溶かし、アルミカップへ流し入れます。最後にろうそくの芯を立てて完成です。まち灯り実行委員の平山さんの指導のもと、子どもたちがろうそくをアルミカップからこぼさないよう、またヤケドしないよう慎重に楽しく作業を行っていました。

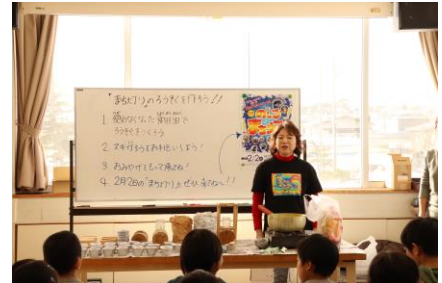
凧絵灯籠づくりは、灯ろうに貼り付けられた男べらぼう・女べらぼう凧絵の着色作業です。能代凧絵保存会の方に、ご指導を受けながら、丁寧に筆を動かし、作業を行っていました。鮮やかな赤色の凧絵灯籠がテーブルの上にずらりと並びました。

今年度から新たに福岡県博多で行われているイベント「博多灯明」の灯りを取り入れます。「博多灯明」は紙袋とキャンドル、重しの砂を使ったシンプルな灯りが使用されており、子供たちには紙袋をくしゃくしゃにする作業をしていただきました。

最後に室内を暗くし、作っていただいたろうそくと凧絵灯籠へ灯りをつけました。やさしい温かな灯りが子供たちを照らし、参加した子どもたちは「簡単で、楽しかった」と笑顔を見せ、まち灯りが待ち遠しい様子でした。

当日は「スギ灯り」や、「夢灯り」など約1500個の灯りを設置する予定で、灯りが能代の夜を鮮やかに彩ります。

文：東 洸成



▲のしろまち灯り実行委員長の能登さんから作業内容について説明



▲平山さん指導のもと、ろうそくを製作



▲能代凧絵保存会の方と凧絵灯籠づくり



▲「博多灯明」の製作。紙をくしゃくしゃにする子どもたち



▲室内を暗くして、ろうそく点灯